



文楽 2

BUNRAKU

池田陽子 YOHKO IKEDA

Department of Photography

ひらかな盛衰記

人形浄瑠璃文楽の舞台は太夫、三味線、人形遣いの三業が一体となって創り出す芸能であるが、なかでも人形の役割りは大きい。文楽人形の首(かしら)の部分を作り続けた人形師・大江巳之助さんが平成9年1月亡くなった。昭和5年から文楽に係わり昭和14年頃からは鳴門市の自宅工房で黙々と人形を製作して、舞台の上で人形遣いの手で生命を吹き込まれるのを無上の喜びとして文楽を陰から支えて生涯を終えられた。

私が撮影を続けている文楽の舞台の殆んどは大江さんの手による首である。60年以上の長きに亘って製作された首の種類は数多いが大江巳之助さんが好きだったであろう舞台で構成してみた作品である。



菅原伝授手習鑑



菅原伝授手習鑑